
令和4年度

全国学力・学習状況調査結果及び分析

【概要版】

佐倉市教育センター

目 次

<u>I 令和4年度全国学力学習状況調査について</u>	1
<u>II 教科の概要</u>	2
○ 小学校 国語	2
○ 小学校 算数	3
○ 小学校 理科	4
○ 中学校 国語	5
○ 中学校 数学	6
○ 中学校 理科	7
<u>III 児童生徒質問紙の概要</u>	8
<u>IV 学校質問紙の概要</u>	10

I 令和4年度 全国学力・学習状況調査について

1 調査実施日

令和4年4月19日（火）

2 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「令和4年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

3 結果公表の趣旨

本調査において、市内小中学校全体の結果を公表することは、佐倉市教育委員会が保護者や地域住民の方々に対し、説明責任を果たすことになる。また、分析した調査結果は、各学校における教育活動の改善に生かすとともに、佐倉市教育委員会の施策に資するために活用する。

ただし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎない。以上のことを考慮し、学校では、教育活動の取組状況と本調査結果の分析を踏まえた指導改善策を併せて示すことで、児童生徒の学力向上に資することが望ましい。

4 結果の概況

(1) 小学校

【佐倉市の平均正答率】 ・国語：67% ・算数：64% ・理科：63%

- ・国語、算数は、全国及び千葉県の前平均正答率を上回っており、理科は同程度であった。
- ・国語は、知識及び技能に関する内容の正答率が良好であった。
- ・算数は、図形の領域に関する内容の正答率が良好であった。
- ・理科は、「粒子」を柱とする領域の正答率が比較的良好であった。

(2) 中学校

【佐倉市の平均正答率】 ・国語：68% ・数学：50% ・理科：49%

- ・国語、数学は全国の前平均正答率を下回っていたが、千葉県の前平均正答率と同程度であった。
- ・理科は、全国平均と同程度であったが、千葉県の前平均正答率を上回っていた。
- ・国語は、言語の特徴や使い方に関する知識及び技能の正答率が比較的良好であった。
- ・数学は、図形の領域に関する内容の正答率が比較的良好であった。
- ・理科は、「エネルギー」を柱とする領域の正答率が比較的良好であった。

Ⅱ 教科の概要【小学校国語】

1 小学校国語の平均正答率

問題数 14問	佐倉市(公立)	67%
	千葉県(公立)	66%
	全国(公立)	66%

2 小学校国語に関する調査の結果の概要

- 知識及び技能に関する内容の正答率が良好であった。
- 短答式の問題形式の正答率が良好であった。
- ▲書くことに関する思考力、表現力、判断力等の内容に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に多少の課題があった。

3 小学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で概ね正しく使うことができている。
- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを認識できている。
- 登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができている。
- ▲文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。
- ▲文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。

4 小学校国語の改善策

- ☆読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識して推敲する活動を取り入れる。
- ☆互いの書いた文章を読み合い、目的や意図に応じた文章の構成や展開になっているかなどについて、感想や意見を具体的に伝え合う活動を取り入れる。

Ⅱ 教科の概要 【小学校算数】

1 小学校算数の平均正答率

問題数 16問	佐倉市(公立)	64%
	千葉県(公立)	63%
	全国(公立)	63%

2 小学校算数に関する調査の結果の概要

- 図形の領域に関する内容の正答率が良好であった。
- 選択式・短答式の問題形式の正答率が概ね良好であった。
- ▲他の領域と比べると変化と関係の領域に関する内容の正答率に課題があった。
- ▲データの活用の領域に関する内容の一部に課題があった。

3 小学校算数に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解できている。
- データの活用の領域のうち、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できている。
- ▲数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。
- ▲データの活用の領域のうち、目的に応じた円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることに課題がある。

4 小学校算数の改善策

- ☆日常の具体的場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりする活動を取り入れる。
- ☆目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察する活動を取り入れる。

Ⅱ 教科の概要 【小学校理科】

1 小学校理科の平均正答率

問題数 17問	佐倉市(公立)	63%
	千葉県(公立)	63%
	全国 (公立)	63%

2 小学校理科に関する調査の結果の概要

- 粒子を柱とする領域の正答率が比較的良好であった。
- 短答式の問題形式の正答率が比較的良好であった。
- ▲エネルギーを柱とする領域の正答率に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 小学校理科に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。
- 問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる。
- ▲実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。
- ▲日光が直進するといった光の性質について理解することに課題がある。

4 小学校理科の改善策

- ☆問題を解決する際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする学習活動を取り入れる。
- ☆問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動を取り入れる。

Ⅱ 教科の概要 【中学校国語】

1 中学校国語の平均正答率

問題数 14問	佐倉市(公立)	68%
	千葉県(公立)	68%
	全国 (公立)	69%

2 中学校国語に関する調査の結果の概要

- 言葉の特徴や使い方に関する知識及び技能の正答率が比較的良好であった。
- 短答式の問題形式の正答率が比較的良好であった。
- ▲話すこと・聞くことに関する思考力、判断力、表現力等の内容について課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 中学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 小説の中で使われている事象や行為、心情を表す語句について理解することができる。
- 助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができる。
- ▲自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題が見られる。
- ▲自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題が見られる。

4 中学校国語の改善策

- ☆聞き手の立場に立ち、相手の反応を踏まえたり、資料や機器を用いたり、場の状況に応じて言葉を選んだりするなど、様々な工夫があることを理解し、実践できるようにする。
- ☆根拠となる複数の事例や専門的な立場からの知見を引用することなどが考えられることを理解し、引用の仕方や出典の示し方の知識を生かして書くことができるようにする。

Ⅱ 教科の概要 【中学校数学】

1 中学校数学の平均正答率

問題数 14問	佐倉市(公立)	50%
	千葉県(公立)	50%
	全国(公立)	51%

2 中学校数学に関する調査の結果の概要

- 図形の領域に関する内容の正答率が比較的良好であった。
- ▲関数の領域に関する内容の正答率に課題があった。
- ▲思考・判断・表現に関する内容の正答率に課題があった。

3 中学校数学に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 図形の領域において、証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を概ね理解している。
- 事象を数学的に考察する場面において、問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。
- ▲関数の領域において、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。
- ▲数と式の領域において、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。

4 中学校数学の改善策

- ☆問題解決の方法に焦点を当て、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決のためにどう用いたかといった「用い方」を明確にして数学的に問題解決の方法を説明する活動を充実させる。
- ☆ある事柄が成り立つ場合と成り立たない場合を比較する活動を通して、その結論が成り立つための条件は何かを考え、見出した性質を基に事柄を説明する機会を設ける。

Ⅱ 教科の概要 【中学校理科】

1 中学校理科の平均正答率

問題数 21問	佐倉市(公立)	49%
	千葉県(公立)	48%
	全国 (公立)	49%

2 中学校理科に関する調査の結果の概要

- エネルギーを柱とする領域の正答率が比較的良好であった。
- 選択式の問題形式の正答率が比較的良好であった。
- ▲生命を柱とする領域の正答率に課題があった。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題があった。

3 中学校理科に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することが比較的できている。
- ▲節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することに課題がある。
- ▲考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善できる方法を考えることに課題がある。

4 中学校理科の改善策

- ☆身近な植物を分類する学習で身に付けた、観点や基準を見いだして表現する力を活用し、動物の外部形態を観察して表にまとめる活動を取り入れる。その際、表にまとめた内容それぞれの関連について話し合う学習活動などを通して、動物に対する興味・関心を高め、動物を観察するときの着眼点を考えるようにする。
- ☆実験の測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、結果を表したグラフから、改善点を明確にし、実験の計画を検討して改善する学習活動を充実させる。

Ⅲ 児童生徒質問紙の概要

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの □：その他

1 基本的な生活習慣等

- 基本的な生活習慣は概ね身についており、健全な生活を送っている様子が伺える。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方に関しては、7割以上の生徒が、家の人との約束を守っている。
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っていない小学校の児童の割合は、全国及び千葉県の平均に比べて高かった。

2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- 「人が困っているときは、進んで助けている」「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」など、規範意識に係る質問に対する回答は、肯定的な割合が高かった。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合は高かった。

3 学習習慣等

- 家庭での学習時間は、児童よりも生徒の方が長い傾向が見られた。
- 平日の家庭学習の時間は、小学校では1～2時間が最も多く、次いで30分～1時間であった。中学校では、1～2時間が最も多く、次いで2～3時間が多かった。
- 休日の家庭学習の時間は、「1時間より少ない」「まったくしない」と回答した割合は、小学校ではやや高い傾向にあるが、中学校では低くなる傾向が見られた。また、小学校では「1時間より少ない」と回答した割合が最も高かったのに対し、中学校では「1～2時間」と回答した割合が最も高かった。
- 「読書は好き」と回答した児童生徒の割合は全国・千葉県の平均に比べて高かった。

4 地域や社会に関わる活動の状況等

- 地域の行事への参加に関する肯定的回答の割合は、児童生徒ともに全国・千葉県の平均に比べて概ね高かった。

5 ICTを活用した学習

- 「学習の中でICT機器を使うことは勉強の役に立つ」と9割以上の児童生徒が回答した。
- ▲授業におけるICTの使用頻度は、全国・千葉県の平均を大きく下回った。小学校では学級の友達と意見を交換する場面、中学校では授業中に自分で調べる場面における、PC・タブレットなどのICT機器の活用に課題がある。

6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組

- 「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合は全国・千葉県 averages に比べて高かった。
- ▲中学校では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したことがあると回答した生徒の割合は、全国・千葉県の平均に比べて低かった。

7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童生徒が多かった。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒が多かった。
- 総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動への取り組みについて、小学校では比較的取り組んでいたが、中学校では課題が見られた。

8 国語の学習に関する興味・関心や授業理解度等

- 「国語の勉強は好き」「国語の授業の内容はよく分かる」と回答している児童生徒の割合は高かった。

9 算数・数学の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 「算数・数学の勉強は大切だと思う」「算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と回答している児童生徒の割合は高かった。

10 理科の学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 「理科の勉強は大切だと思う」「理科の授業内容はよく分かる」「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている」と回答している児童生徒の割合は高かった。
- ▲「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい」と回答する児童生徒の割合は低かった。

12 各教科の調査時間の適切性

- 小学校では、算数・理科の解答時間は十分であったものの、国語は回答時間が足りなかったと回答している割合が高かった。
- 中学校では、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合は、国語・理科では高かったものの、数学では課題が見られた。

IV 学校質問紙の概要

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの □：その他

1 生徒指導等

○学習規律を維持し、自己有用感を与える指導を行っている。

▲小学校では、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」の質問に対して肯定的な回答をした割合は低く、課題が見られる。

2 学校運営に関する状況／教員の資質向上に関する状況

○教員が授業や学級で問題を抱えた場合、早期に解決に当たることができている。

□ICTを活用した校務の効率化は進んできているが、中学校では、効率化を通じた学校からのお知らせ（通信等）の軽減については課題が見られる。

3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○主体的・対話的で深い学びの視点を意識して授業改善を進めている。

▲地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱うことについては課題が見られる。

4 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道德の指導方法

○学級活動の授業や特別の教科道德において、様々な事象に対し児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え話し合うような指導の工夫を行っている。

▲総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導について、小学校では課題が見られる。

5 学習評価

○学校内で、評価規準や評価方法の共通理解を図ることで、児童生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしてきている。

6 国語科の指導方法

○小中学校共に、言葉の特徴や使い方についての指導に取り組んでいる。

▲中学校では、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの指導の取組については、課題が見られる学校もある。

7 個に応じた指導

▲算数・数学の授業では、少人数による指導、習熟度に応じた指導、チーム・ティーチングを行わなかった学校が多い。

8 算数・数学科の指導方法

○多くの学校が、公式やきまり、計算の仕方等を指導する際、児童生徒がそのわけ（根拠）を理解できるように工夫をして学習指導を行っている。

▲実生活における事象との関連を図った授業や数学的活動を通じた学習活動の実施には課題が見られる。

9 理科の指導方法

○全小中学校で、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行っている。

▲児童生徒が観察や実験をする授業の実施については課題が見られる。

10 ICTを活用した学習状況

○ICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会を設けている。

○ICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフなどの技術的サポート体制ができていると回答した割合は高かった。

▲授業における一人一台端末の活用については、課題が見られる。

11 特別支援教育

○特別支援教育について理解し、児童生徒に対する授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行っている。

12 小学校教育と中学校教育の連携

▲小中学校間における教育課程の接続や授業研究の実施、全国学力・学習状況調査の結果の共有については課題が見られる。

13 家庭や地域との連携

○小学校では、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加している。

□中学校では、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があると考えられる割合は高いが、実際の取組の実施については課題が見られる。

14 家庭学習

○家庭学習の課題の課し方について、校内で共通理解を図り、児童生徒に家庭学習を促している。

○児童生徒が行った家庭学習の課題を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしている。

15 全国学力・学習状況調査等の活用

- 自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をすることは概ねできている。
- ▲小学校では、結果を佐倉市学習状況調査と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等へ反映することに課題がある。

16 新型コロナウイルス感染症の影響

- 新型コロナウイルス感染症の影響による学年閉鎖等の休業日においても、県や市教育委員会が作成したプリントを活用し、教科書に基づく基礎的な内容を重視した学習に取り組んでいる。